

あい  
**人** File\_07  
いちのせきを愛する人



熱く燃えたる熱は、絶対に伝わる  
作品を語る表情はまさにアーティスト

菊地志保さん

Kikuchi Shiko 30 心情画家 藤沢町徳田

病を抱えながらも、絵と向き合うことで心が強くなる



④千厩町千厩の「ギャラリーひのや」で開かれた個展。作品が飾られた空間には、優しく温かい時間が流れる  
⑤展示された作品の一つ「祈り」。強い思いは時空を超えるというメッセージをキャンパスで表現した



Profile 1982年生まれ。絵は無心で描く。24色の絵具を組み合わせる色は無限大だ。病を抱えるも、強い思いと祈りは叶えることができることを感じてほしいと個展を開く。9人家族。藤沢町徳田在住。30歳

「なんで私よりうまいんだろう」幼稚園の頃、絵が上手い友達にヤキモチを焼いた。絵が好きだったから、友達の色遣いに嫉妬した。一番になりたかった。

「心情画」を描く画家菊地志保さん(30)＝藤沢町徳田＝。本格的に絵を始めたのは高2のとき。デッサンなどの基礎を学ぶため、画家小野寺良剛さん＝五十人町＝のアトリエに通った。高校卒業後は東京のメタルクラフト専門学校でジュエリーのデザインや製造を学び、その仕事に就いた。

6年前、熱が出て、だるい日が続くようになった。病院を何軒も回ったが原因は不明。2年後、ようやく「慢性疲労症候群」と告げられた。ストレスが原因ともいわれ、環境を変えるために帰省した。しかし、常に感じる鈍痛は止むことなく、寒くなると激しい痛み

に襲われる。また、持病の卵巣のう腫の再検査で腫瘍を発見。「前癌病変」と診断された。

9月に手術が決まった。それまで、何をすればいいか一真っ先に浮かんだのが絵だった。落ち込まず、生き生きと過ごしたい。そのためにも個展を開くことを決意した。情熱が一気によみがえった。

3年前にも個展を開いた。当時は満足だった。だが「今思うと甘かった」と振り返る。先生の指導を受けながら描いた作品は、先生の見方でしかないことに気付いた。描いた作品はどれも玄人受けを狙ったものばかり。自分が目指す世界ではなかった。

殻から抜け出して、思いのままに描いた。「体調が悪いと集中力が欠ける。それでも描いた。体が痛くても楽しかった」。千厩町の「ギャラリーひの

や」(日野屋本店内)に飾られた4つの作品、一つ一つに志保さんの強烈な個性がにじみ出ている。

昔はマイナス志向だった。人を避けて生きてきた。学生時代は白黒の絵しか描けなかった。だが、人と出会い、人とつながることの大切さに気付いた。それから色を付けるようになった。以来、志保さんが描く絵には、必ず「人」が登場する。

絵と向き合うと心が強くなる。パズルのように一つでも抜けると心のバランスが崩れる。絵は「生涯のパートナー」。もう、離れられない。

大叔父は千厩町出身の画伯白石隆一。その存在は大きい。「同じくらいか、それを超えたい」ときっぱり。

今回の個展は、8月11日から20日まで藤沢文化センターで。手術の前に、来観者から笑顔とパワーをもらう。

藤沢徳田地区で「ホタルの里」づくりスタート

7 July 2012



藤沢町徳田地区の皆さんと設置した「ホタルの里」案内板

農地・水・環境の保全と育成を目指す藤沢町徳田地区の「農地・水・環境保全向上徳田地区活動組織」(千葉ひろあき代表)は、徳田字疇地内の沢を「ホタルの里」として保全していく活動を始めました。

「ホタルの里」は市道罫線から少し奥まった農道沿いの沢です。同組織は、住民や地域を訪れる人たちの環境保全意識の高揚を目指し、まずは手作り案内板を設置しました。

7月7日には保全活動の一環として徳田地区自治会協議会(千田博会長)と共催で「ホタル観賞会」を開催。地域の親子連れや同町に避難している沿岸被災地の人など約70人が夏の風物詩を楽しみました。

千葉代表は「ここは昨夏発見しました。ホタルは水のきれいな場所にしか生息しないので、生息地にふさわしい環境を保全していくことが私たちの仕事です」と話していました。

千厩で東北初の「まちの駅全国フォーラム」

14 July 2012



開会式で歓迎のあいさつを述べる勝部修市長/震災復興の歩みを講演する菅原茂気仙沼市長/同日はせんまや夜市も同時に開かれ、全国から訪れた人たちを歓迎した

まちの駅連絡協議会主催の第15回まちの駅全国大会「まちの駅全国フォーラム in 千厩」は7月14、15の両日、千厩町農村勤労福祉センターなどで開かれました。

東北で初めて開かれたフォーラムは、全国のまちの駅関係者が意見や情報を交換して観光振興につなげることがねらい。今年は「まちの駅ができる震災からの復興支援」をテーマに14日は開会式、全体会と分科会が、15日は視察が行われました。

歓迎のあいさつに立った勝部修市長は「被災地後方支援の拠点である一関で全国大会が開かれたことは誇

りです」と述べました。

全体会では、菅原茂気仙沼市長が「復興一路”気仙沼～あたたかい心に包まれて」と題して講演。菅原市長は被災直後から現在までの取り組みを紹介しながら「水産と観光のまちを復興させ、支援してくれた全国の皆さんに報いたい」と力を込めました。

分科会は「復興支援」「観光交流」「物産交流」の3つ。このうち「復興支援」には約50人が参加。「被災地に近いまちの駅を支援の拠点に」など活発な意見が出されました。

15日の視察は「夫婦石」と「千厩酒のくら交流施設」を訪問しました。

大東支所を皮きりに10会場で「移動市長室」

19 July 2012



小森塾で地域住民から建物の説明を受ける勝部市長

勝部修市長が各支所で仕事をする「移動市長室」は、7月18日の大東支所を皮切りに始まりました。

移動市長室は、勝部市長が地域に出向いて市民の皆さんと地域課題や市政について懇談する場で3年目。本年度は7支所に中里、狐禅寺、萩荘の3公民館を加えた10会場です。

このうち19日は、かつて高野長英がきょうべんをとったという大東町鳥海の「小森塾」を訪問。地域づくりについて地元市民と意見を交換しました。

合併で大きくなった市は、均衡ある発展を目指し、市内8地域をローテーションしながら各種事業やイベントなどを開催しています。

大東支所を除く本年度移動市長室の開催日程は次のとおりです。

- 【東山支所】7月31日④、8月1日④【千厩支所】8月22日④、23日④【中里公民館】10月2日④【狐禅寺公民館】10月16日④【萩荘公民館】10月25日④【花泉支所】10月31日④、11月1日④【室根支所】11月6日④、7日④【藤沢支所】12月11日④、12日④【川崎支所】12月18日④、19日④